冬の企画展
福井の院展作家 土屋閃代展―現代美術から日本画へ

3月3日（日）まで開催

《観無寿経浄土変想図（当麻曼荼羅）》1991年

院展とは…

土屋さんが所属する院展は、岡倉天心が結成した美術研究団体（日本美術院）です。一時解散状態となった後、1914 年に再興され今日に至っています。展覧会は一般の部（公募）と同人の部があり、春の院展に対し秋は「再興」院展と称され、春が習作・試作・小品となるのに対し秋は大作が出品されます。
土屋さんの貴重なコメントとともに、春と秋の表現の違いをお確かめください。

陶芸教室カリキュラム　薪窯

加越窯　窯出し作品

金津創作の森陶芸教室では、カリキュラムの窯焚きが今年度も 11 月に行なわれました。生徒さん思い思いの陶に灰釉（はいゆう）がかかり、自然の妙を感じさせます。3月16日（土）から始まる「第11回陶芸教室・ガラス講座・ろう染めクラブ作品展」でも展示されます。

窯出し作品の一部

平成29年度 金津創作の森事業白書

利用者数は 79,682 人

金津創作の森では、美術館として年間 4 本の自主企画展を開催しています。そのうち夏期はより多くの人が楽しめる企画により集客に努めています。29 年度は「イラストレーション展　BEING GREEN」を開催しましたが、利用者数が前年度を下回り、約 8 万人という数字となりました。当館のネットワークを生かして第一線で活躍中のイラストレーター 7 人を招待した"BEING GREEN"は将来の事業展開につながる財産となったのは事実です。今後、こうしたコネクションを生かし、あわら温泉旅館や市街地などへの展開を視野に、事業を推進して参ります。

↑「BEING GREEN」展 ギャラリートーク

←創作の森散策路MAP（A3）イラストレーター・今井トゥーンズさん（"BEING GREEN"招待作家とのコラボレーション）

□　**館長就退任**
土岡秀一（美術評論家）が退任（2011ー2017）。
後任に土田ヒロミ（写真家）が平成 29 年 6 月 1 日付けで就任

□　**利用者数**
美術館 56,993 人（内レストラン 7,532 人）、ガラス工房 9,279 人
創作工房　13,305 人、その他（宿泊棟）105 人

□　**社会的効果**
福井新聞掲載 延べ 77 回、その他マスコミ掲載など 延べ 67 回

□　**支出決算額** 1 億 31,965 千円（前年度比△6.54%）

■　**全国誌、県外誌掲載など**
「婦人画報」5 月号（講談社）、「presious」5 月号（小学館）、
美術手帳 Web 版（美術出版社）、「KELLY」6 月号（ゲイン）、「Pen」4 月 15　日号（CCC メディアハウス）、旅サイト「trip note」（ノーマディック）、「大人の休日倶楽部」9 月号（JR 東日本）、WEB「手づくり市ガイド」（プレマガジン）、「じゃらん」関東・東北版 3 月号（リクルートライフスタイル）、北陸朝日放送、北日本新聞文化欄、「clubism」7 月号・「金沢日和」（金沢倶楽部）

■　**貸し館、体験ご利用など（利用者またはイベント名）（順不同・敬称略）**
株式会社ドラフト、福井ヤナセ、池坊九頭竜支部、一道会、「せりかな＆Blu-Swing」、「森で音楽と笑いの祭典」、「加藤すみ子パリ個展報告展」、「全国染色交流作品展」、「湯けむり映画祭表彰式」、「ハンドメイドパーティー Fun! Fun! Fun!」、「第 54 回福井一陽展」、「福井の小さな手づくり展」、「岡本一郎和紙絵画個展～彩・創・心～」、仁愛大学、甲南大学、名古屋大学、大野高校、金沢大学付属高校、敦賀市粟野中学校、奥越特別支援学校、若越ひかりの村、福井赤十字病院、鯖江村田製作所、株式会社東和薬品ほか

※　**視察、ビジター（順不同・敬称略）（平成 30 年秋季）**
古川タク（アニメーション作家、イラストレーター、絵本作家）、ウノ・カマキリ（漫画家）、仁愛短期大学、京都市立芸術大学、金沢美術工芸大学ほか

●月曜休館（祝日の場合開館、翌平日休館）
●（公財）金津創作の森財団 事務局　TEL.73-7800　http://sosaku.jp/
●アンビション（レストラン＆森の結婚式）問合せ　アンビション TEL. 73-4141

「女将」ご賞味あれ

◆12月18日（火）　セントピアあわら

「あわら温泉女将の会」による日本酒「女将」のお披露目会が開催されました。女将の会のメンバー自らが酒米の田植えから仕込みまでを丹精込めて行う「女将のお酒づくりプロジェクト」も、今年で5年目。例年以上にすっきりとした味わいに仕上がったという今年の「女将」を記念して、お披露目会では乾杯が行われました。「女将」は、辛口と甘口があり、各旅館の食事で提供されるほか、売店でも販売されます。

あわら市がモデルの小説発売中！

◆12月20日（木）　市役所

あわら市在住の小説家・桑島かおりさんが、あわら市を舞台のモデルとした小説を 12 月に刊行したことを受け、市長を表敬訪問しました。刊行したのは、光文社キャラ文庫「ことぶき酒店御用聞き物語」。女性が主役のファンタジー要素のあるお仕事小説で、実名こそ出ていないものの、湖近くの小さな温泉街を舞台に、鹿島の森や観月の夕べ、カヌーなど、あわら市をイメージさせるものが多数描写されています。桑島さんは、実際に市内の旅館を取材するなどしたそうです

桑島さんから本をいただいた市長は、「若者向けの小説ということで、実際のあわら市にも興味を持ってもらえれば」と、喜んでいました。

「ことぶき酒店御用聞き物語」は全国の書店で発売中で、1月10日、2月8日にそれぞれ2、3巻目が連続して刊行されます。

まちかど graffiti では、広報係が取材した“あわらの話題”をお届けします！

お正月の準備は万端！

◆12月14日（金）　細呂木小学校

細呂木小学校の4～6年生の児童 40 人が、ミニ門松作りを体験しました。細呂木地区創生会のメンバーから「門松は山にいる神様をお正月に家に迎えるためのもの」との説明を受けた児童たちは、創生会のメンバーに手伝ってもらいながら、竹筒に丁寧に土を入れたり、葉ボタンやナンテン、ウメの枝を植えたりと真剣に取り組んでいました。最後には、自分の作った門松に満足そうな笑顔を見せ、お正月の準備は万端といった様子でした。

国道8号の整備に向けて

◆12月17日（月）　市役所

国道8号加賀・あわら間整備促進期成同盟会の設立総会を開催しました。この同盟会は、加賀市と連携し、国などに対して国道8号加賀・あわら間の整備促進をさらに強く働きかけていくためのものです。設立総会では、昨年2月の大雪で、県境区間に約 1500 台の車両の立ち往生が発生したことが挙げられ、両市の連携による4車線化の早期実現を誓っていました。

今月の「あわら贅沢」な1枚

北潟湖から拝む初日の出

アイリスブリッジの奥からゆっくりと昇ってくる初日の出。静かな水面（みなも）には、明るい日の影が映っていました。
今年1年、良いことがありますように。
@ awara.zeitaku 投稿

あわら贅沢
あわら贅沢冬
#awarazeitaku
#awarazeitakuwinter
北潟湖
初日の出

「あわら贅沢」な1枚募集中！

このネームタグをInstagramでスキャンすると、「あわら贅沢」あわら市公式Instagramをフォローできます◀